

来月移転の譜久山病院

「お薦め」の本を持ち寄り共有

11月、現在の明石市西明石北町3から現町2に移転する譜久山病院(譜久山剛院長)で16日、新院内に完成した本棚のお披露目が開かれた。本を紹介した地域の拠点となることを目指しつくられたもので、その考の提唱者が来院。訪れた内覧者約40人と、本を紹介し合ったり、ライブラリーへの関わり方を話し合ったりした。

(片岡達美)

院内に本棚
交流の拠点に



完成した本棚。市民が寄贈した本が並ぶ予定の現町2

本棚は、市民が本を持ち寄った本棚を町中に点在させ、新しい交流の場をつくる「まちライブラリー」の取り組みを参考に、その費用をインターネットを通じて小口投資「クラウド・ファンディング」で募って完成させた。

この日は一般社団法人「まちライブラリー」(大阪市中央区)代表理事の磯井純充さん(58)が、これまで設立に携わったライブラリーを例に、その意義について話した。

企業や病院は従来、利用

者に対して一方的にサービスを提供するだけだったが、それら施設内に本棚を設置し、利用者が自分で選んだ本を置くことで「双方向の関係になり、両者に信頼関係が生まれる」と磯井さん。「成功のカギは、成果を求めるのではなく、楽しみとして展開していくこと」ともいい。「譜久山病院にも、そうした関係を築いてほしい」と期待を述べた。

「ライブラリー」提唱者

磯井さん、活動紹介



海

引きこもるセミナー、後2時、北王子町ケア開発する。引きこもる家族での会(東町1)、こもり支援目され(クラフエ方を成

伊弉册、只海の安、西海上渡、聖に神輿を雲を回つ、約50年前、関係者、らが大海、型に分かれ、集めた結、場や養殖、神社の地、を海に持、同業、も一緒に、での無事、港町の木、神事が行、地域の発、た。